
短編(1)

夜鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短編（1）

【Zコード】

Z5441E

【作者名】

夜鳥

【あらすじ】

600字に満たない詩を集めた短編集。

『夢の端』

何故だろう

黒の闇が広がる空に 気付けば手を伸ばしてた

欲しくて欲しくて 手を伸ばす

届かないものに憧れる

小さな子供みたいな望み
あの月が欲しいと焦がれてる

空を搔く手は虚しさを集め
空に浮かぶ月は憂いを帯び

目に映るたび

その瞬間を焼き付けたいと願う

見ている時だけは その横顔は僕の物

この目に映る色も 星も

今此処にいる僕だけが見ている光

そう想つて見つめた先に

今宵も映る蒼白の君

僕の想いなど知らぬまま

今宵も只過ぎて行く

僕は何も出来ず
君の儂気な光を追いかける

知らずのうちに掴んでいたもの
掌にある今を
見失わないようそつと開く

小さな欠片が映し出す 僕の瞳は
動き出す世界を望んでる

明るんで来た暗闇の世界で
銀色に光る 君を抱きしめて

この掌にある鍵で開く扉

その向こうは きっと

僕が望む この世界で
いつか一人で築く 幸せな 夢の端

揺れる 揺れる

波紋のように 緩く 淡く

落ちる 君の 哀しみの雲が
落ちる 僕が 果てなき恋に

甘く 切なく ひそやかに

まるで

雨垂れの落ちた 水面のよう

揺れて 揺れて 波立つ心

いつか また

この心に静寂が訪れたら

それは 僕から君の心が離れた証

さよならを 告げるなら

君が愛した この心をあげるから

僕に君の涙を下さい

この心が癒えるように

もう少し

君を好きでいられるように

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5441e/>

短編(1)

2010年12月9日19時22分発行